

山の温泉便り

湯本学区のふるさと交流情報誌

第6号

2019年2月5日
湯本学区ふるさと
交流実行委員会

山の温泉便り 第6号 2019年2月5日発行 発行者/湯本学区ふるさと交流実行委員会

事務局 西和賀町ふるさと振興課
岩手県和賀郡西和賀町川尻 40-40-71 TEL: 0197-82-2111



湯本学区ゆかりの皆さん明けましておめでとうございます。平成最後の新年を皆様にはどのようにお迎えでしょうか。こちらは昨年と打って変わって雪の少ない穏やかな新年を迎えています。ただ、この便りが届くころは果たしてどうなっていますか。(1月18日現在積雪124cm) 4月半ばまでは長い冬でもりと思っています。そんなこともあってか、この人達は殊の外、春を待つ気持ち強いようです。その春の一番の楽しみは満水の錦秋湖面に映える山々の新緑と、山の恵みです。中でも山菜は枚挙にいとまがないほど種類が豊富。その中でも頂点に立つのは西ワラビです。特長は太くて軟らかくてトロツとした食感ですが、これは恐らくブナ林に代表される奥羽山脈の肥沃な土壌と、豪雪を融かす春の強い陽射しの相乗効果、言い換えれば「天然の蒸し風呂」状態に育つからではないでしょうか。西和賀の山菜類はこの自然の申し子。西和賀に暮らす醍醐味の一端がここにあるのだと思う。

湯本学区ふるさと交流
実行委員会

会長 湯沢 正



湯本学区のお店 shop!

地区にあるお店を紹介します。ぜひお越しください!



↑サラダ付きで¥600



◆『喫茶ケイ』の名物ナポリタン

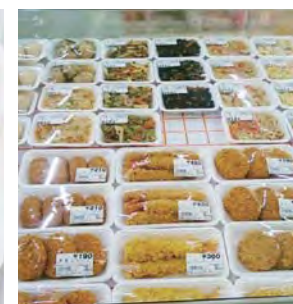
初めは喫茶店だった現在のお店を、食事でも楽しめるお店として平成5年にリニューアルしたのをきっかけに、名古屋で働いていたマスターが名古屋流を取り入れ、熱々の鉄板皿に溶き卵を入れて、その上にナポリタンを乗せる「ケイの名物ナポリタン」となった。熱々の鉄板にクリーミーなふわとろ卵、溶けた粉チーズとパスタが絡まり何とも言えない美味しさで、一度食べたら病みつきになる味。常連さんたちも多く、「湯本に行ったらケイのナポリタン!」が合言葉。メニューも豊富でご飯ものや麺類、デザートもある。夜は20名までの宴会プランや飲み放題プランもあります。

【定休日】火曜定休
【時 間】ランチ 12:00 ~ 14:00
夜 17:00 ~ 21:00
【電 話】0197-82-2835
【住 所】西和賀町湯本 30 地割 3-34

湯本学区 周辺の おいしいもの vol.3

手作り風ハンバーグ

お惣菜の種類がとても充実して、近くにある西和賀高校の学生さんの胃袋をも満たしてくれている。その中で、一押しの「手作り風ハンバーグ」15年前から、子供達が大好きだったので作るようになったのだと言う。一番の決め手のソースは、トマトケチャップとソースをミックスしているが、その配合は企業秘密。わざわざ和賀町からこの商品を買ってくるリピーターのお客さん多いとのこと。俵型の大きいハンバーグ2個入りで270円と値段もリーズナブル。ぜひ一度ご賞味あれ!



↑南川方夫さん、正子さんご夫婦

Yショップ・みなみかわ

住所: 西和賀町湯田 21 地割 54-18
電話: 0197-84-2005
営業: 8:00 ~ 21:00
定休: 不定休

湯田町が小説の舞台に なったこと知っていますか？

湯田（昭和42年卒） 匿名希望さん

「山の温泉便り」いつも楽しく拝読しています。編集に携わっておられる皆様には、心から感謝申し上げます。

第5号の表紙に新会長の湯沢さんが登場。そして“オロセの吊り橋から湯之沢を望む写真。なんとピッタリの心憎い演出でしょう。もちろん本誌の内容も充実、少ない紙面ですが興味満載でした。

さて、本題です。最近、田舎の同級生から「湯田町のことが出ている小説がある」という話を聞いて、すぐに読んでみました。名探偵・浅見光彦シリーズで著名な、推理作家の内田康夫さんの「悪魔の種子」という著書（講談社文庫、2015年3月31日第1刷発行）で、この小説は、雑誌「家の光」に2004年新年号から2年間にわたり連載された作品だそうです。

小説には湯本、湯川、川尻、左草、錦秋湖、ほっとゆだ駅などの地名等が実名で登場してきて、ビックリしました。この文庫本は、全444頁で第1章～第8章の構成。湯田町のことは、第5章「ライスブランコ」の頁に集中的に書かれていました。

「秋田自動車道の湯田インターで下りて、国道107号を行き、長いトンネルを抜けると、湯田町の中心街に出る…」との記述。また、浅見光彦が「湯本の大丸食堂で、きつねうどんを食べた。」という記述もありました。さらに湯田ダムのことについては、数頁にわたる説明がなされ、相当取材されたようです。

私は自分の生まれ育った故郷の地名等が実名で登場する小説を見たのは、初めてのことです。不思議な気持ちであり、こそばゆくもありました。この小説について、湯田町で大きな評判・話題となったような話を、これまで聞いたことがありませんでした。知らなかったのは、私のように一部の者だけかもしれませんが。



ご寄稿頂きありがとうございます。引き続き皆様のご寄稿を募集しています。その他、みなさんの知りたい情報などもあれば、お気軽にお問い合わせください。

浅見光彦シリーズ

湯本学区
出身者からの寄稿



間木野

間木野からこんにちは



協議会長
小田島 貞男さん

間木野は小さい集落でみんな年取ってきましたが元気で頑張っています。間木野地区は昭和46年頃湯本大橋と湯本バイパスが出来たおかげで交通の便が飛躍的に良くなったわけですが、それ以前は左草川の橋を渡って湯田に出てそれから湯本に出てきたものでした。学校の行き帰り、特に下校時はまっすぐ帰ることなどほとんどなかった(?)。

昔から間木野は農村集落ですが、湯本小学校・湯本中学校に学んだ我々は間木野穴堰や湯田たんぼのほとりで時間を忘れて遊んだものでした。ドジョウ・タニシ・ドロブナッコ・セキギャッコ(カラス貝?) 挙げればきりがありません。遊びであると共にみんな貴重な蛋白源でした。時には捕まえたカエルのお尻からおなかを膨らませたりパンクさせたりしたことも…。

間木野出身の人は、間木野と聞いて一番に思い出すのは「恵子先生」



ありし日の高橋恵子先生

ではないでしょうか(先生は平成26年お亡くなりになりました)。我々の代は湯本小学校から湯本中学校まで、そして子供や孫は湯本保育園でお世話になったと云う人もかなりいるのではないのでしょうか。三代に渡って教えていただいた恩師でした。師範出の美人で本当は数学の先生なのに、代わりが居なくて湯本中学校では専ら音楽でした。悪ガキで音楽をまともな勉強と思っただけでなかった我々でしたからふざけてばかり。途中でオルガンを止めて怒られたことが昨日のことのように思い出されます。



湯本学区の人



▲ 講談師・田辺鶴瑛さん

CASE 9

小林 ^{てる}光子さん（ご主人 定夫さんと）
昭和9年5月生まれ 84歳 湯の沢在住 俳人
岩手県俳句連盟副会長、社団法人俳人協会会員
岩手県俳人協会顧問、俳誌「風土」「草笛」「樹氷」、同人 絵本作家



昭和41年、山崎和賀流氏から俳句をやってみないかと誘われ俳句の道へはいる。俳句は、もともとやってはいなかったが、詩などには、興味があつた。その道に入り52年になる。岩手県内、いろんなところで句会の役職を担い、湯田区では、「雪つばき句会」というサークルで、今でも現役で指導をしている。「俳句は、趣味でやるものではなく、真剣な気持ちでやるもの。厳しく指導すればするほど、良いものができる。」とのこと。俳句への強い想いが伺える。

平成27年、81歳の時に、脑梗塞を患い、一人では歩けなくなつてしまった。毎日、リハビリに励み、また俳句が詠めるまでに回復する。

俳句は、感性が優れてないと、つけないという。光子さんの俳句を読ませていただくと、四季折々の西和賀町の風土、自然の音、森の生き物の様子、この土地ならではの行事

や食べ物、人との繋がり、生命、あらゆるものが題材とされている。光子さんが俳句を真剣に考えるようになったのは、俳句の道に誘ってくれた山崎和賀流さんが亡くなつてからだという。今でも、和賀流さんが言ってくれたことを忠実に守り続けていることがある。それは、「俳句は、夜につくるな」と言われたこと。実際に、夜に作った作品を次の日、朝見ると、なんでこんなつまらない句をつくつたのだろうと後悔したのだ。それから俳句は、午前中に作ると決めたそう。



「自分が長い間俳句に携つてこられたのは、俳句には頂点がないこと、終わりがなくところが今も続けられる理由だと思う。」とのこと。
光子さんは、絵本作家として絵本も手掛けている。ご自分の幼い頃の思い出が物語のヒントになっている気がする。西和賀の山の中の思い出や、雪の思い出が童話の中に出てくる。今後も良い作品を作つて頂きたい。

※山崎和賀流氏 昭和13年旧湯田村（湯本）生まれ。昭和48年、第19回角川俳句賞受賞。その後35歳という若さで亡くなる。光子さんが尊敬する師匠的存在。

花火消え
みちのく
底無しの
私賀流のり

↑山崎和賀流さんによる句

おかげさまで40歳になりました♪ 『光寿会感謝の誕生会』を終えて



11月15日と16日の2日間、光寿会※創立40年を記念して、『40歳：感謝の誕生会』を開催させていただきました。

地域に受け容れられ、共に歩ませて頂いてきた光寿会の歴史を振り返った時、40周年も、過去の30周年や35周年に引き続き、『地域に恩返しする企画』しかない！そう思い企画が始まりました。多くの方々に関係する内容、しかも笑顔を引き出し合えるようなものとは何か。それがお笑い介護講談で名を馳せていらつしやる講師・田辺鶴瑛師匠の講談にあつた。

飾ることなく、介護のおもしろさも苦悩も全部披露されるそのスタイル。身の上話を創作講談として手掛け、惜しみなく披露されていた内容は、私たちの等身大の福祉・介護そのものに輝きがあることを示していた。おかげさまで。



※社会福祉法人 光寿会…昭和53年、旧湯田町に「特別養護老人ホーム光寿苑」として創立。この地域に愛され、40周年を迎える。

→エリオット・コクレーンさん（右）からレッスンを受ける湯田中生



にしわがE-cafeでは
10月31日ハロウィンを
実施しました。

湯田子供会の活動

西和賀町は、同町湯本のまちなか交流館で、全町民が対象の英会話教室、にしわがE-カフェを開講した。町民約100人が英語学習に取り組み、レベルアップを目指す。

初日は湯田中生9人が参加。講師を務める町教委国際理解推進員のエリオット・コクレーンさん（29）＝米国メイン州出身＝と生徒が簡単なゲームを行い会話を楽しんだ。塾講師の経験がある町地域おこし協力隊員の高橋夏江さん（44）も支援し、生徒は真剣な表情でドリルを解いた。

教室は月曜を除く平日4日間の午後5時半～同6時半、同交流館と同町沢内の太田老人福祉センターの2カ所で開催。申し込みは100人。小学生以下の入門、中高生向け英検や受験対策、一般向けの趣味の英会話の3コースがある。問い合わせは町教委学務課（0197-85-2337）へ。



←まちなか交流館をスタートし湯本地区内を歩き3ヶ所の店舗でお菓子をもらい、もどってきてミニゲームをして楽しみました。



湯田青年会の活動



サンタが街に やってくる

Santa Claus came to the town



「メリークリスマス。」
「いい子にしますか？」
クリスマスイブの日、今年も湯田
区にサンタクロースが現れて子供達
にプレゼントを渡しました。
「大きいサンタクロースだっけ！」
と、ある子供がお母さんに教えてい
ました。そうです、小さなサンタク
ロースの年もあれば、遠慮がちなサ
ンタクロースや「悪い子いねが！」
と家に入ってくるサンタクロース。
毎年いろいろなサンタクロースが来
てくれるので、子供はもちろんの事、
大人も楽しみにしています。湯田区
（湯田、清水ヶ野、間木野地区）で
は、青年会（山田豊会長）のメンバ
ーが毎年サンタクロースに変装して小
学校入学前の子供達の家に行き、プ
レゼントを渡しています。この行事
ははるか昔から行っているようです



が、ここ30年位は途切れることなく
続けて来ています。会長さんの話
によると「地域のみなさんの応援の
おかげで続けていますが、何より家
族を犠牲にして参加してくれるメ
ンバーと、その家族に感謝します。」
とのことでした。本当にご苦労様
でした。そして、
ありがとうございます。